

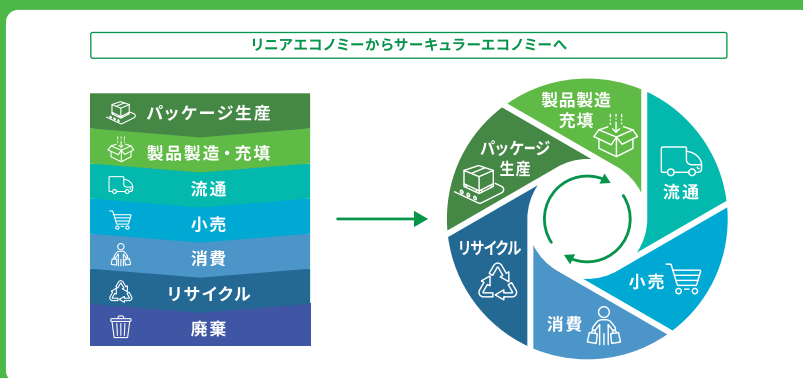
FUTURE 2030

リサイクルからのCO₂排出量削減と資源活用

パッケージは利便性や経済性はもちろん、
フードロス問題や健康問題にもつながる品質保全性、安全性など
人々がこの地球で暮らしていくために欠かせない役割を果たしています。
無駄を減らしながらもその機能を保持し、
そして最終的に廃棄をなくしていく必要があります。

サーキュラーエコノミーで東洋インキのできることって？

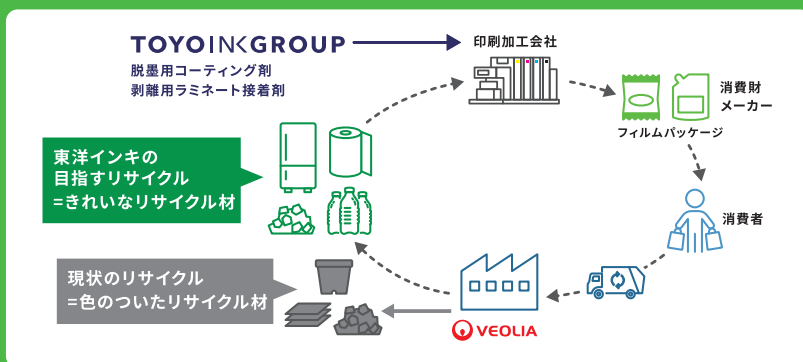
世界はリニアエコノミー（線形経済）からサーキュラーエコノミー（循環経済）へと構造を転換させていこうとしています。パッケージにおいても、従来であれば廃棄物を減らすためのリサイクルでも十分でしたが、これからは廃棄物という概念を取り除き、パッケージ生産から消費までをリサイクルを前提に再設計していくことが求められます。そのような中、東洋インキが自社の技術で貢献できることをご紹介いたします。



東洋インキが目指すリサイクル

フィルムパッケージのリサイクル

剥離用ラミネート接着剤と脱墨用のコーティング剤技術を活用して、積層されたフィルムパッケージを剥離、脱墨の上きれいなプラスチックを取り出しリサイクルをする仕組みのご紹介です。



(協業) 伊藤忠商事株式会社、ヴェオリア・ジェネッツ株式会社

紙パッケージのリサイクル

UVインキの脱墨を可能にするコーティング剤技術を活用してきれいな紙へと再生するリサイクルの仕組みのご紹介です。

